

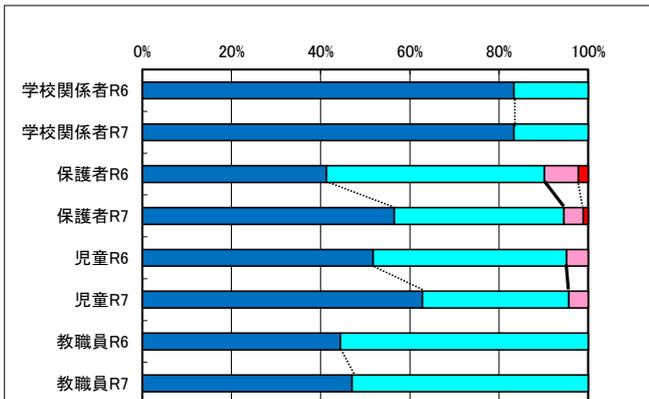
令和7年度 学校評価



錦町立木上小学校

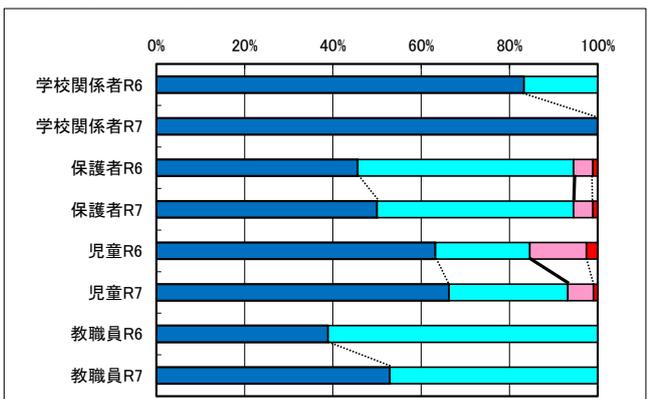
■ そう思う ■ どちらかというと ■ あまり ■ そう思わない

1 教育方針・目標の理解



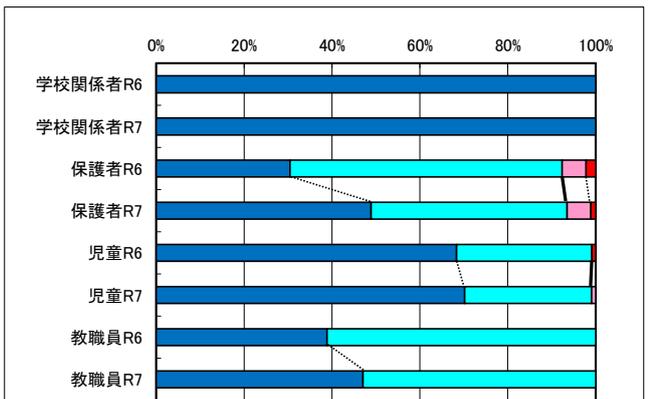
学校の教育方針・目標の理解の肯定的評価は高い。保護者・児童で否定的評価が少なくなるように、今後も保護者・児童に機会を設けながら、分かりやすくしっかりと伝わるような手立てが必要である。共通理解を図りながら、学校総体としてアピールをしていく。

2 充実した学校生活



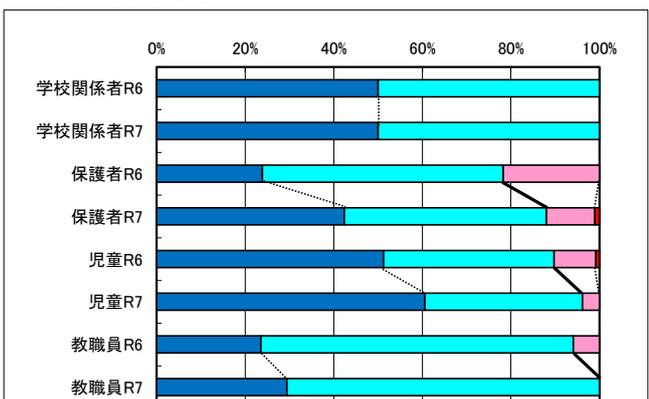
全体では肯定的評価が増えている。しかし保護者・児童に否定的評価が見られる。原因を探るとともに、児童の「充実した姿」を求めて、学校生活が充実するような取組の工夫をし、目標設定をさせることを進める。それをクリアして達成感を味わった児童の姿を見届けていくとともに、保護者へ伝わるような手立てが必要である。また、「そう思わない」意見への早急な個別の対応も重要である。

3 授業づくりの工夫



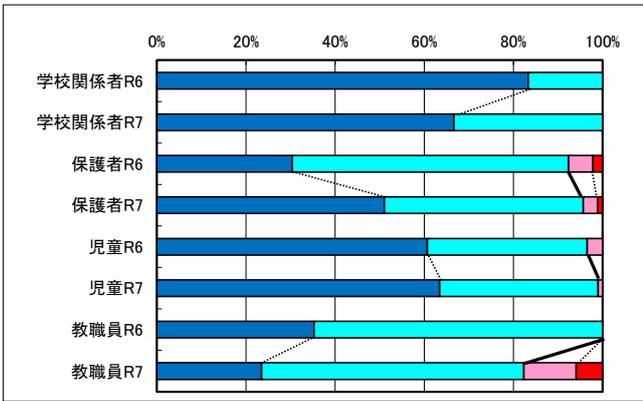
肯定的評価が大半を占めるが、保護者の否定的評価が確認でき、課題である。自由参観等、授業を公開する機会では、特に保護者に工夫した授業づくり、わかる授業、丁寧な授業への取組を理解してもらうことが必要である。成長した児童の姿を認識していただくためには、まずは教員の個々の授業力の向上である。学校総体で校内研修や日々の授業力向上プラン、管理職による授業観察を更に進め、授業改善をしっかりと実践していくことが必要である。

4 主体的な学習態度



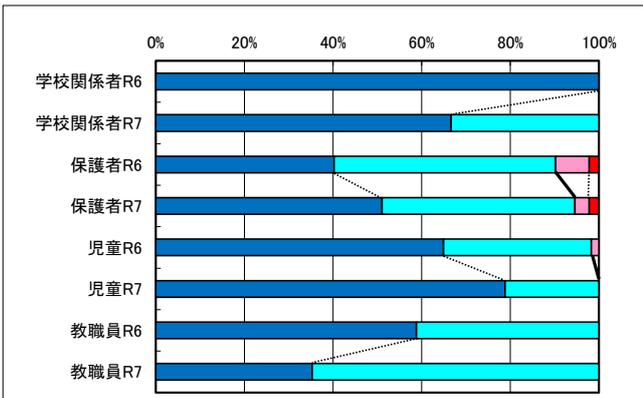
(保) ワースト3。昨年度ワースト1であった。どの対象も数値の向上が見られるが、保護者・児童ともに否定的評価が見られる。児童にとって自己に厳しい評価ともいえるが、主体的に学んでいることを実感させるための教師側の適切な指導、保護者へのアピールが求められる。保護者に対しては、今後も継続して児童の主体的な活動、意欲的な姿を通信・ホームページ・授業参観等で紹介していく。「自ら課題を見付け、学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する」といった問題解決学習に継続して取り組んでいくことが必要である。

5 郷土愛の醸成とキャリア教育の推進



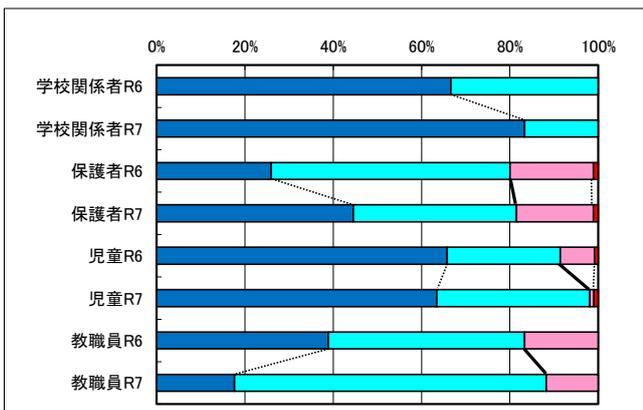
おおむね肯定的評価が多いが、保護者の一部に否定的評価が見られる。キャリアパスポートでのコメント等、協力を得ながら取組の理解を得ていくとともに教職員も指導計画に沿った育成を意識しながら指導を進めていく。教職員の数値が低下しており、郷土愛に関する学習やキャリア教育に対する改善を進めていく取組が求められる。また、中学校とも連携を図りながらキャリアパスポートの共通理解、実施を推進していく。

6 道徳、心の教育の充実



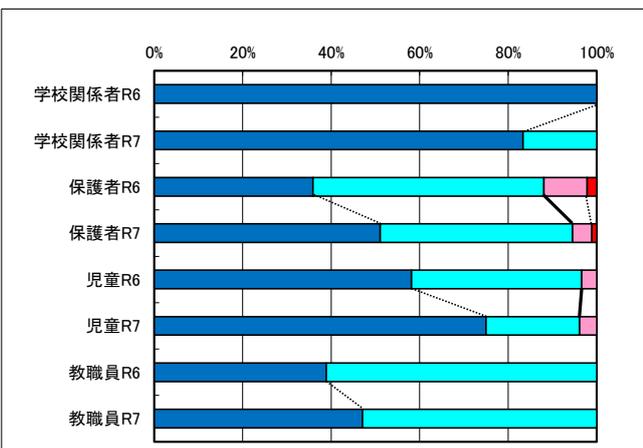
保護者・児童とも肯定的評価が増える中、保護者の否定的評価が1割弱見られる。原因を探るとともに、道徳教材の家庭での親子読書等の取組を今後も継続し、家庭へ啓発していくことが必要である。また、教職員の「そう思う」数値が向上するように、教職員が強く意識して、道徳科の時間を中心としたすべての教育活動において、心の教育の充実を図っていかなければならない。

7 あいさつ、礼儀の励行



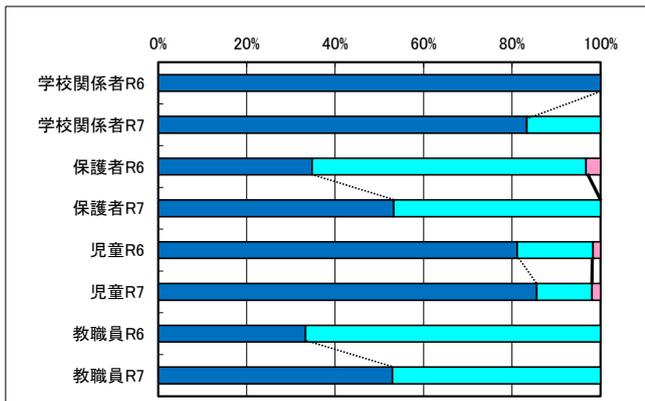
(保) ワースト1。保護者・児童は「家・地域」でのあいさつ、教職員は「学校」でのあいさつで調査。否定的評価が見られる。また、児童との意識には差が見られる。担当を中心とした生徒指導等により校内でのあいさつの向上はもとより、地域・家庭でのあいさつの向上に向けての取組が必要である。今後、この結果を学校全体で真摯に受け止め、認め・ほめることを継続して推進していく。

8 一人一人の児童の尊重



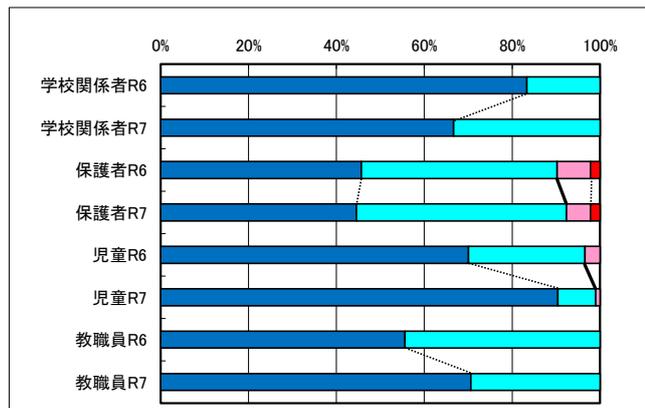
保護者・児童に否定的評価が一定数見られる。心のアンケートや教育相談、面談等を行っているが、より丁寧な実態把握、児童に寄り添った対応、チームによる適切な対応を心がけて実践していかなければならない。現在行っている定期的な実態把握アンケートを継続し、よりきめ細かな対応が求められる。また、保護者との連携も更に密にする必要がある。更に教職員は教育的愛情をおろそかにせず、自信をもって「そう思う」と回答できるだけの矜持をもたなければならない。

9 友だちへの思いやり



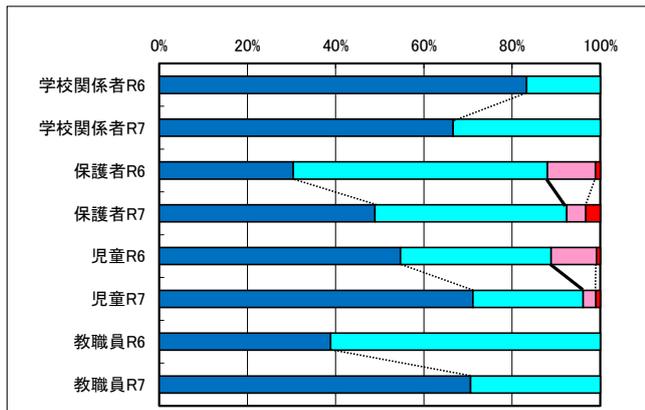
全体的には肯定的評価が多数を占め、「そう思う」数値の向上も見られる。保護者での否定的評価も見られなくなった。課題としては児童に一定の否定的評価があり、このことを真摯に受け止め、原因を解明するとともに、丁寧な説明、対応が必要である。引き続き学校全体で児童の人権意識を高める取組を一層強化していく必要がある。

10 学校行事への参加と工夫



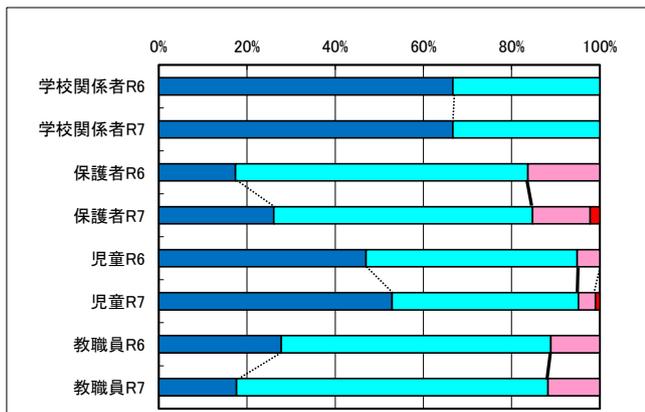
肯定的評価が多い中、保護者の否定的評価があり、学校行事の更なる工夫・改善が求められる。児童の「そう思う」割合が増え、満足度の高まりが見られる。今後は、保護者・職員の「そう思う」割合の増加を目指していく。参加しやすい魅力ある行事にすべく内容や雰囲気づくりを更に工夫し、充実させていく。

11 児童理解



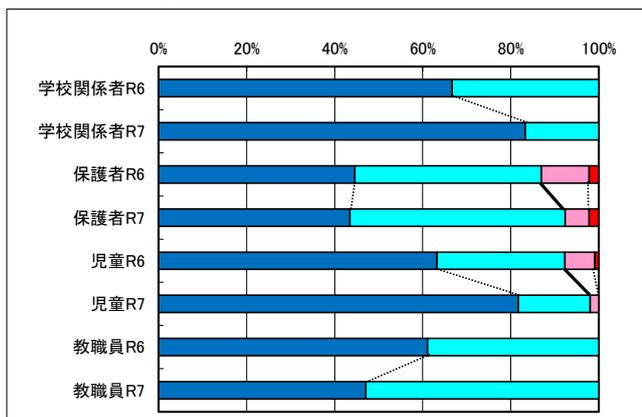
まずは、教職員が教育的愛情をおろそかにせず、自信をもって「そう思う」と回答できるだけの矜持をもたなければならない。保護者・児童・教職員の「そう思う」割合が増えており改善されてきているが、否定的評価が見られ課題である。少なくとも否定的評価がなくなることを目指す。学校内で職員全体でも児童理解の時間を設けて取り組んでいるが、その取組がしっかりと伝わるような施策も必要である。

12 規範意識



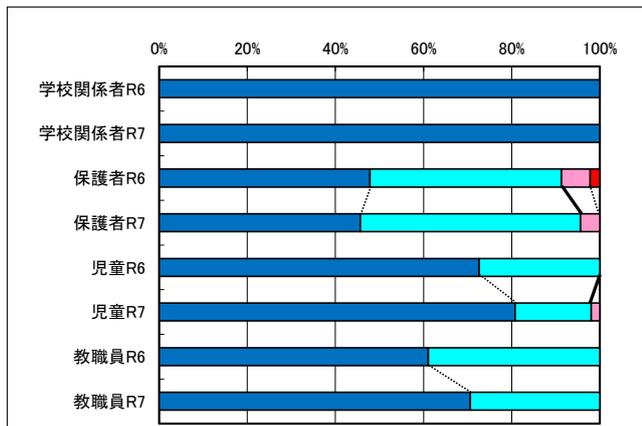
(保) ワースト2。規範意識の醸成については保護者・児童・教職員共に「そう思う」はまだ少ない。また、否定的評価は昨年度と変わっていない。「あまりそう思わない」児童について丁寧な支援・指導が必要である。学校生活でのルールの凡事徹底など基本的な生活習慣面も含めて教職員で共通理解のもと、指導を進めていく。規範意識の向上が本校の課題の一つと教職員も強く認識して指導していく必要がある。

1.3 いじめや問題への対応



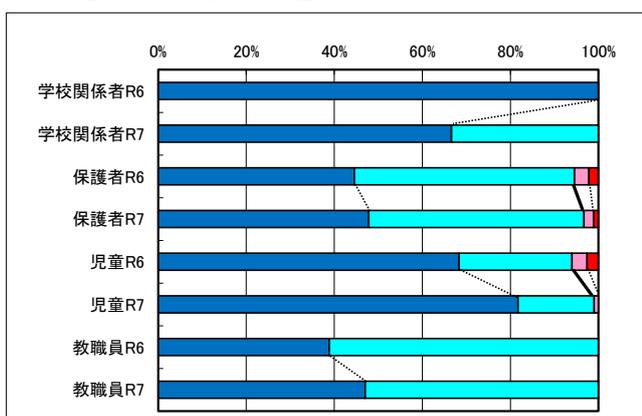
数値の減少は見られるものの依然として保護者・児童に否定的の評価が見られ課題である。定期的、また必要に応じて、いじめ不登校対策委員会を開催し、共通理解を図りながら取り組んで対応してきている。また、保護者からの問い合わせ、相談には即時、丁寧に対応してきているが、取組の情報公開等を更に進め、理解をしていただくべく努めていかなければならない。児童への迅速な対応や保護者への十分な説明がまだ不足していた可能性もあると真摯に捉える必要がある。教職員の対応の仕方についての更なる共通理解・共通実践を図っていく必要がある。

1.4 安全と事故防止



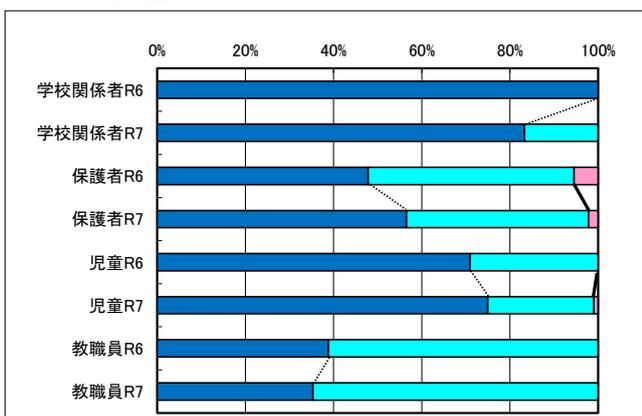
安全、事故防止については日頃から指導・支援を行ってきている。しかし、保護者での「そう思う」の割合が半数程度であり、否定的評価も見られるので、その原因を明らかにすることが急務である。今後は更に安心・安全な生活を意識付けさせるとともに、登下校中や地域での事故防止により一層取り組んでいく必要がある。学校が行っている安全面での取組を保護者へ啓発することも考えていく。児童の否定的評価への早急な対応とともに、教職員は安全教育年間指導計画に則って、意識的な指導をしていかなければならない。

1.5 健康教育と食育の推進



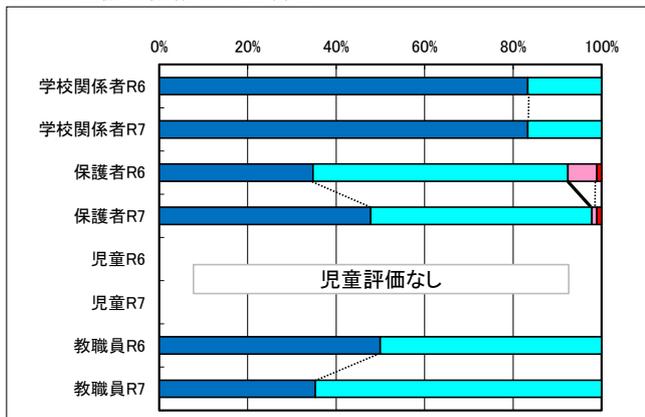
肯定的評価が多く見られたが、保護者・児童ともに否定的評価が少なくなるよう更なる改善が必要である。健康・安全面において、特に養護教諭を中心に毎月の保健指導、検診結果をもとにした受診、改善への働きかけ、けがや感染症予防の取組、給食・食育担当を中心に食育の様々な取組を行ってきている。教職員は自信をもって「そう思う」と言えるように、今後、更にわかりやく啓発していく必要がある。

1.6 環境の整理・美化



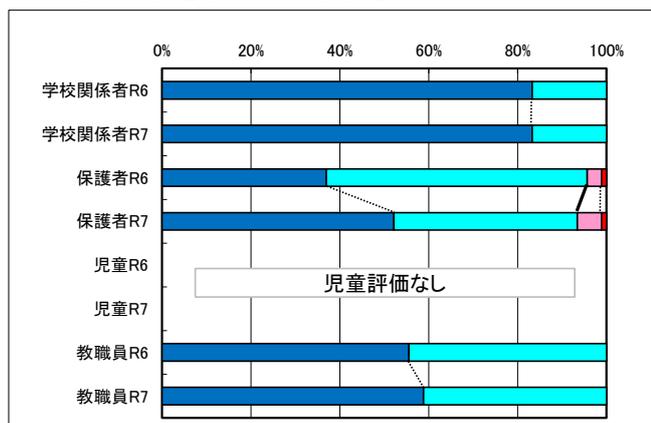
肯定的評価が多いが、特に保護者・教職員の「そう思う」の割合が増えるよう、できることから着実に環境整理・美化に取り組んでいく必要がある。また、否定的評価についても更に減少するよう花壇整備や掲示の工夫・改善を進めていく。また、児童への身の回りの整理整頓などを支援していく。

17 施設・設備の安全管理



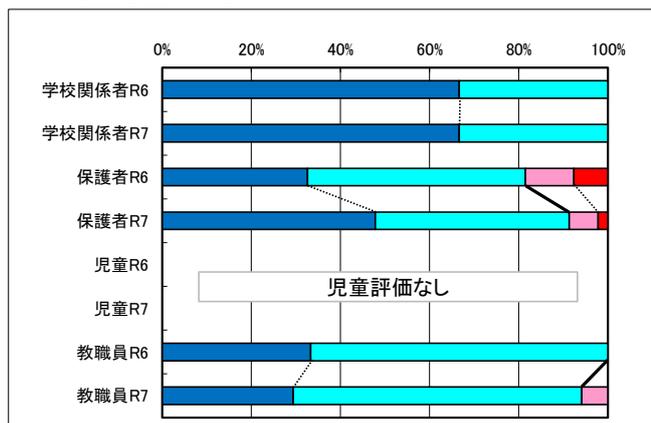
定期的に安全点検を実施し、修繕等が必要な部分は改善するように努めているが、今後も継続していく。教職員で「そう思う」の数値が減少しているので、原因をつかみ、対応をしていく。学校施設・設備がやや老朽化している所もあるが、早期発見を心がけ、教育委員会とも連携しながら、早期修繕に努めていく。

18 学校の取組等がわかる情報発信



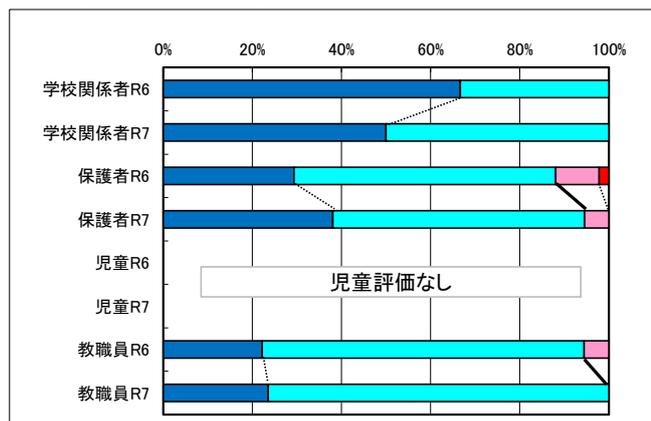
おおむね肯定的評価をいただいている。保護者の「そう思う」の割合が増えているものの、否定的評価が増えており課題である。学校便りを月2回、学級通信をほぼ毎週と発行を重ねている。ホームページについても継続的に更新、向上を図り、情報発信を心がけている。安心安全メールの活用も使用頻度を更に高め、情報発信に努めていく。有用な情報発信になるよう心がけ、「そう思う」割合が増加するように職員の共通理解を図り、取り組んでいく。

19 教育活動への参加



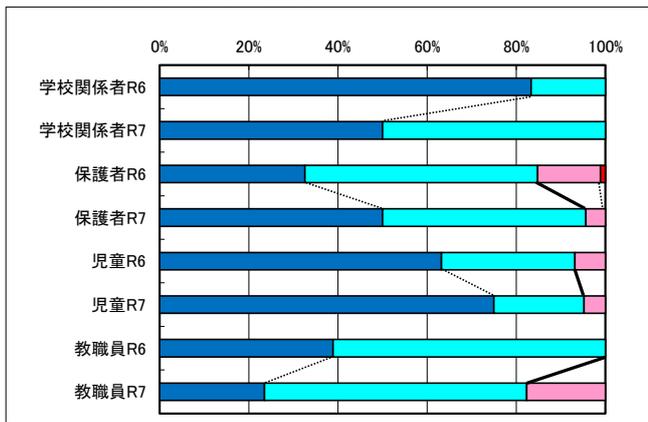
(保) ワースト6。保護者の数値は改善されている。質問項目で主体が「保護者は」「学校は」と違うため単純比較はできないが、保護者の参加率を上げるための学校としての努力を積み重ねていく。学校支援ボランティアやPTA、行政、地域の方々とは連携を図り、参加・協力をいただいている。今後も継続して、学校便りや学級通信、ホームページ等で情報発信し、保護者や地域の方々が学校の教育活動に参加しやすい体制を整えていく。

20 家庭や地域との連携協力



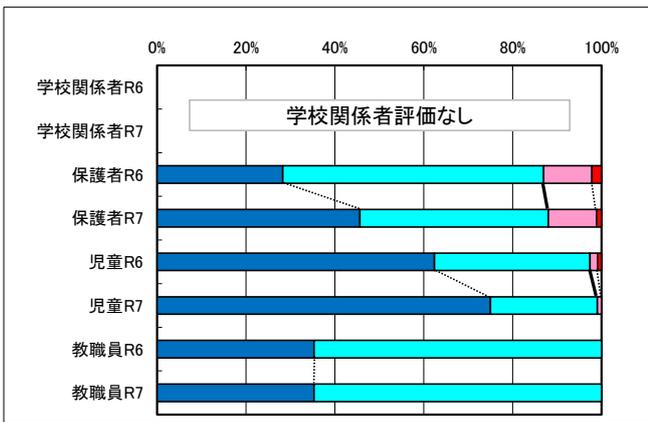
肯定的評価の数値の改善が見られた。各種行事やPTA行事、学校支援ボランティアに協力いただいている体験活動等、特色ある取組を継続し、連携協力を深めていく。今後も情報発信に努めながら、家庭・地域との連携・協力体制を見直していくことが必要であり、保護者の否定的評価の改善を目指す。

2.1 読書活動の推進・充実



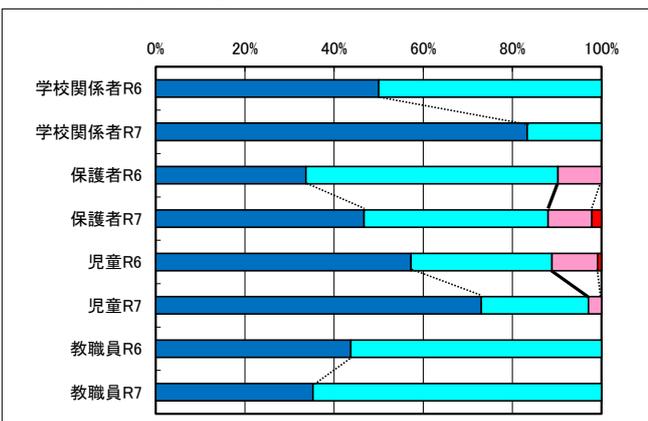
昨年度ワースト5から改善が見られたが、全対象で否定的評価が見られる。「そう思う」割合は保護者・教職員でまだ低い状況で、特に教職員で大きく減少した。課題意識を強くもっていると言えるので、今後は共通理解のもと、学校総体として年間を通しての読書活動推進の計画を見直していかなければならない。また、普段の読書推進の取組に学級差があったことは否めないで、共通実践に向けて、読書の機会を増やし、本好きの児童を育成していくことに取り組んでいくことが必要である。现阶段で図書担当を中心に図書関連の行事・イベントの開催などを行ってきているので、それを生かしながら、今後読み聞かせボランティアの活動とも連携し、PTAや地域を巻き込んだ活動を考えていく。

2.2 学力向上(家庭学習)



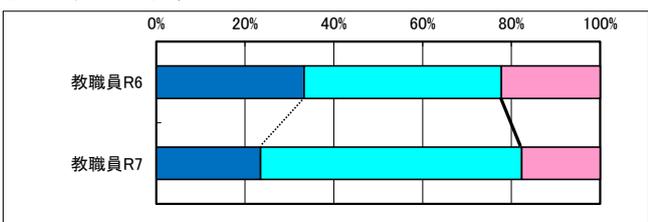
(保) ワースト4。保護者・児童に否定的評価が見られる。「そう思う」の割合については、保護者・児童とも改善が見られる。教職員の「そう思う」はまだ数値が低く、十分な取組には至っていないことが伺える。家庭との連携を図りつつ、保護者のニーズにも応えながら、児童の学力向上が効果的にできる取組を検討していく必要がある。タブレットの持ち帰りやe-ライブラリー等活用の家庭学習も視野に入れながらの取組を検討していく。

2.3 基本的生活習慣



(保) ワースト5。質問項目で主体が「保護者は」「学校は」と違うため単純比較はできないが、保護者に特に否定的評価が見られる。教職員で「そう思う」の割合も減っている。今後も基本的生活習慣の改善のために、学校側の指導・啓発を更に進めていく。具体的にはノーマディアの日や長期休業中の健康チェックカード、早寝・早起き・朝ごはん、親子歯みがき等を継続的に啓発し、家庭と連携して取り組んでいくことが必要である。また、家庭内での基本的生活習慣も含まれるので、PTAと連携し、懇談会や各種行事等で基本的生活習慣の定着に向けた指導や家庭・地域への啓発、外部専門家による講演、講座の開催等も視野に入れながら検討を進めていく必要がある。

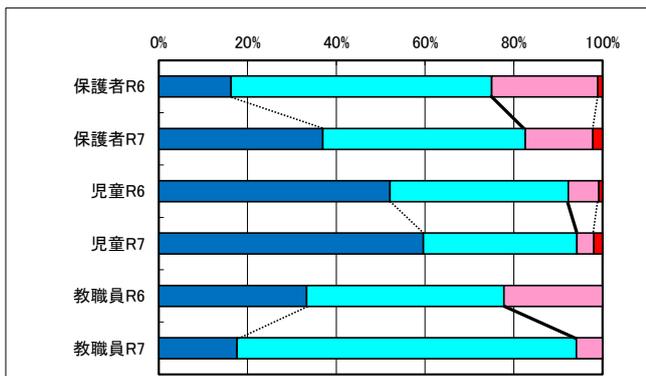
2.4 働き方改革



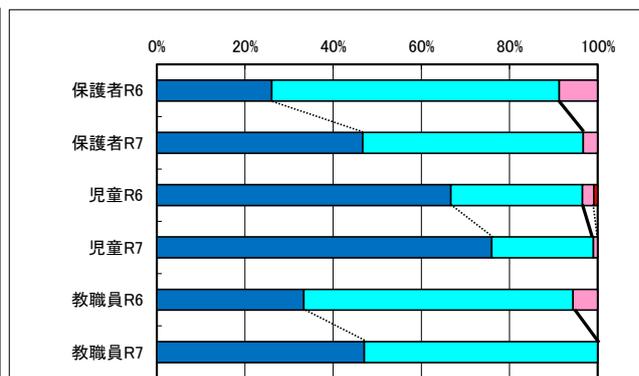
肯定的評価は若干増えたが、否定的評価がまだ2割弱見られる。「そう思う」の割合も低下している。働き方改革については、教職員個別に改善された点、課題点を整理するとともに、今後もワーク・ライフ・バランスや労働安全衛生委員会での提言を踏まえて共通理解を深めながら改善を進めていく。次年度に向けて日課の見直しや時数の見直し・スリム化、若手にベテランの先生方の仕事のノウハウや生活とのバランスを学ぶなどのOJTを進めていく。

その他の実態調査経年比較

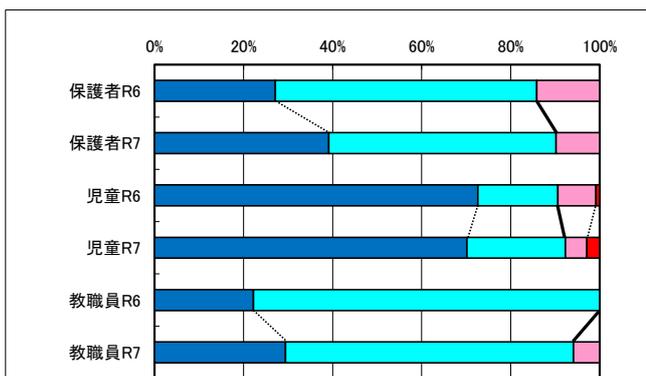
25 粘り強さ



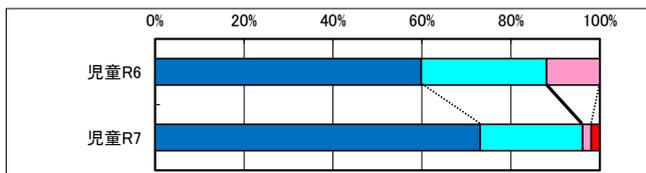
26 協力



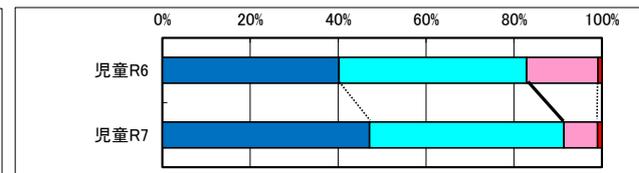
27 体力づくり



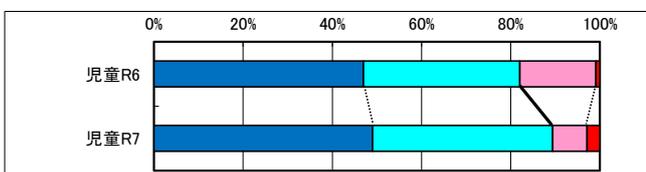
28 先生からの褒め励まし



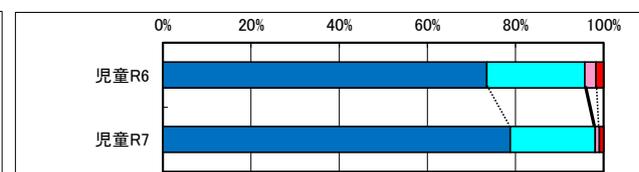
29 時間を守る・席に着く



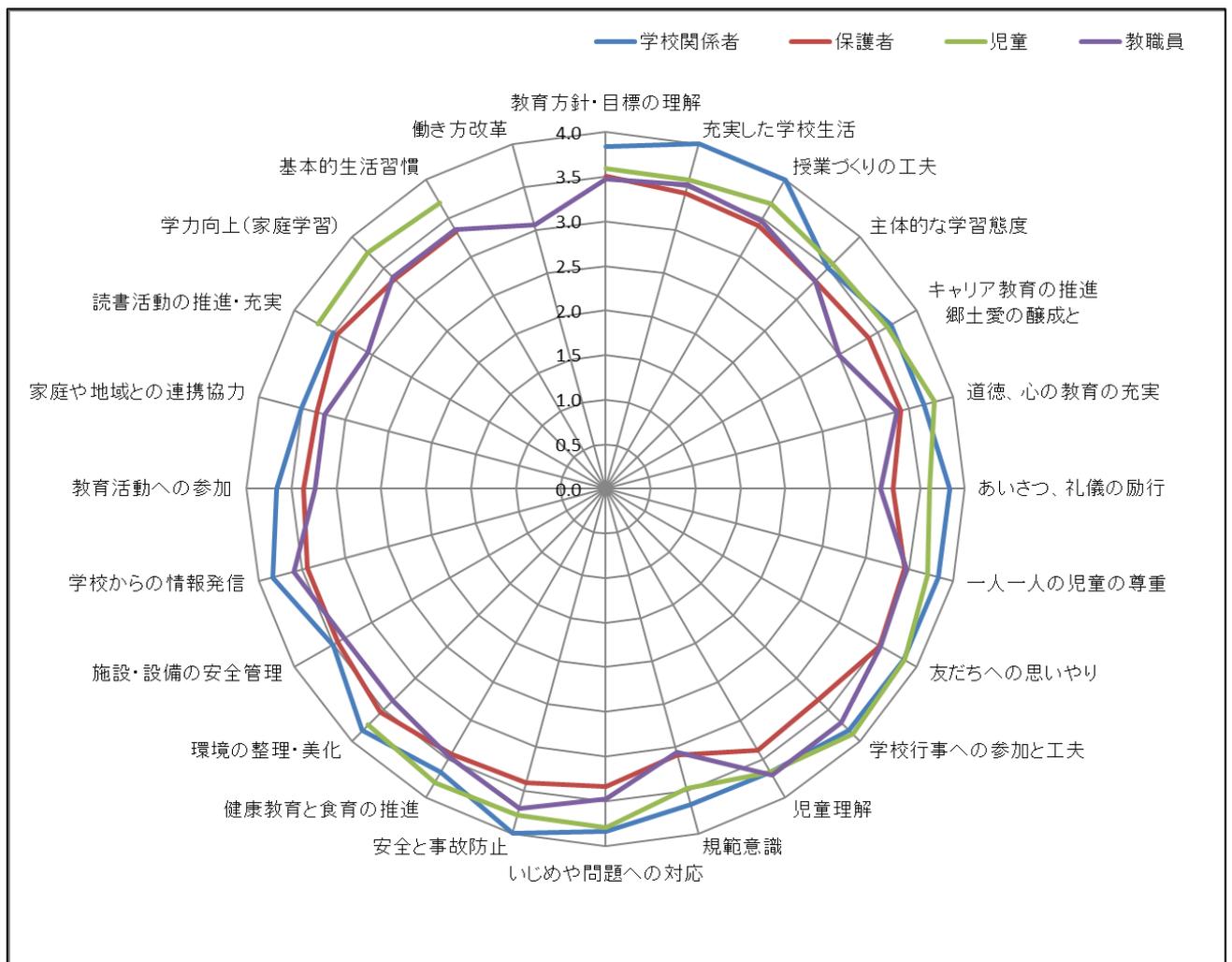
30 授業で話す・発表する



31 時間いっぱい掃除



	教育方針・目標の理解	充実した学校生活	授業づくりの工夫	主体的な学習態度	郷土愛の醸成と キャリア教育の推進	道徳、心の教育の充実	あいさつ、礼儀の励行	一人一人の児童の尊重	友だちへの思いやり	学校行事への参加と工夫	児童理解	規範意識	いじめや問題への対応	安全と事故防止	健康教育と食育の推進	環境の整理・美化	施設・設備の安全管理	学校からの情報発信	教育活動への参加	家庭や地域との連携協力	読書活動の推進・充実	学力向上（家庭学習）	基本的な生活習慣	働き方改革
学校関係者	3.8	4.0	4.0	3.5	3.7	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.8	4.0	3.7	3.8	3.5	3.8	3.7	3.5	3.5	3.8	3.8	
保護者	3.5	3.4	3.4	3.3	3.4	3.4	3.2	3.4	3.5	3.3	3.4	3.1	3.3	3.4	3.4	3.5	3.4	3.4	3.4	3.3	3.5	3.3	3.3	
児童	3.6	3.6	3.7	3.6	3.6	3.8	3.6	3.7	3.8	3.9	3.7	3.5	3.8	3.8	3.8	3.7					3.7	3.7	3.7	
教職員	3.5	3.5	3.5	3.3	3.0	3.4	3.1	3.5	3.5	3.7	3.7	3.1	3.5	3.7	3.5	3.4	3.4	3.6	3.2	3.2	3.1	3.4	3.4	3.1



木上小学校の教育活動に対する率直な評価をいただき、心より感謝申し上げます。

保護者の皆様のうち、23のアンケート項目すべてにおいて8割以上の方が肯定的な意見をもたれており、更にその中の18項目については9割以上の方が肯定的な意見をもたれていることがわかりました。特に、9「友だちへの思いやり」については99%、16「学校の整理・美化」、17「施設・設備の安全管理」については97%と非常に高い評価をいただきました。しかし、7「あいさつ、礼儀の励行」については82%と他と比べて圧倒的に低い評価となっており、12「規範意識」（85%）と合わせて、児童が規則を守れていなかったり、礼儀やマナーが不十分だったりする現状が示されており、本校の課題であると捉えております。

高く評価していただいたものについては、より充実した教育活動となるように取組を推進するとともに、評価が低かった項目及びご意見をいただいた内容につきましては真摯に受け止め、その改善に向けて取り組んでまいります。

今後とも、学校、家庭、地域が一体となって、木上っ子の健全育成に取り組んでいきますよう、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

錦町立木上小学校
校長 新宮 愛智